

# 政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

令和 6 年 2 月 19 日

犬 山 市 議 会  
議 長 柴 田 浩 行 様

議員名 \_\_\_\_\_ 畑 竜 介 \_\_\_\_\_

下記のとおり、行政視察の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	令和6年 2月 14日(水) ~ 令和6年 2月 15日(木) ( 1泊 2日 )
(2) 場 所	香川県高松市・愛媛県四国中央市
(3) 形 態	会派 ( 創犬会 ) : その他 ( )
(4) 内 容	別紙
(5) 成 果 ・ 提 言	別紙



## 香川県高松市「スマートシティの取り組みについて」

- ① 高松市では平成28年に実施されたG7香川・高松通信大臣会合をきっかけとなり「スマートシティたかまつ」の取り組みが始まった。

主な取り組みとして、防災と観光についての事例を聞き取り。

防災に関しては、高松市は災害発生が少なく、市職員が災害対応の経験を積んでいないことや、都市機能と海が近いこともあり、迅速な対応をしないと広範囲に被害が発生する危険性があるとの事。

そこで、IoTを使った川の水位や海の潮位をリアルタイムに情報収集し、地図情報を組み合わせたデータ利活用で早期の安全対策や災害対応の効率化に取り組んでいるとの事。

川の水位計は固定式で9か所、可搬型で3か所、海の潮位に関しては5か所に設置され、リアルタイムデータをダッシュボード化し可視化している。またダッシュボードにはセンサーのデータ以外に、土砂災害危険区域図や県の防災情報によるダム状況などをレイヤーとして組み合わせることで更なる住民に対する、より正確な避難発令が可能になっている。

こうした可視化されたデータをたかまつセーフティマップという防災アプリにすることで、市民ひとりひとりにとっての災害リスクが把握できるようになっている。

- ② 一方で観光におけるデータ利活用事例としては、市直営のレンタサイクル1,250台に対してGPSロガーを50台設置し、起点・終点・利用経路・行動範囲・滞在時間などのデータを蓄積し、観光客の満足度向上や新たな観光資源の発掘

を試みていたが、レンタルサイクルの動態調査は利用者登録の煩わしさや、データの絶対数の少なさにより、利活用は上手くいかず、現在は中止されている。

たかまつデジタル市役所については、当市と同じように申請や届け出のデジタル化を進めている。

現在はデジタル庁の開発したピットリサービスと、民間企業の LoGo フォームを利用しており、約 120 件の手続きがオンライン化されている。

特に LoGo フォームに関しては、フォーマットが分かりやすく、当市が使っている Graffer に比べると大変わかりやすい。実際に子供医療費助成拡充対象者用医療交付申請については 50% の市民がデジタル申請を利用していた。

## 愛媛県四国中央市「デマンドタクシー事業」について

四国中央市の公共交通の状況に関しては、JR 鉄道駅が 6 駅・高速バス・路線バス(5 路線)・タクシー(6 事業者)がある。鉄道駅が 6 駅もあるが、まちづくりが鉄道駅中心にはなされておらず、駅周辺はさびれていた。

デマンドタクシーの導入経緯に関しては、平成 16 年の市町村合併に際し、高齢者や山間地域の公共交通としてコミュニティバス導入の検討から始まったが、地域が広いため利用者の要望に柔軟に対応できるデマンドタクシーの導入に至っている。しかし、議会からはまだコミュニティバス導入についての議論が起きている。

一方で民業圧迫にならないような配慮が必要であり、コミバスの導入は路線バスの撤退につながりかねない為、実施は見送られている。

デマンドタクシーの行政負担額は約 5 千万円で収支比率は約 10% ほど。当市のワン丸<sup>者</sup>バスと収支比率はあまり変わらない。

## 当市への提言

- ① スマートシティの推進については、IoT 機器の活用なども有効的ではあるが、データを集めてもそれをどう使うか？ どう評価するか？ により結果は変わってくる。その為、しっかりとデータ<sup>を</sup>分析ができるような体制を作ることが優先である。またツールを導入する際には、セキュリティだけではなく市民が本当に使いやすいものかという目線も必要である。
- ② デマンドタクシーについては、四国中央市の様なタクシー事業者がたくさんおり、また市全域が広域にわたる地域には有効だと感じるが、当市のように鉄道駅が有効に使える状況であれば、現在のわん丸<sup>者</sup>バスが有効に感じる。しかしながら、バス停までの距離などまだ課題は多いことからタクシー助成の範囲を広げるなど、すべての市民の行動を助ける目線は必要である。